

# SHOW HEY シネマール

★★★★★

## シラノ・ド・ベルジュラックに 会いたい！

2018年/フランス映画

配給：キノフィルムズ、東京テアトル/112分

2020(令和2)年11月22日鑑賞

テアトル梅田

### Data

監督・原案・脚本：アレクシス・ミ  
シャリック

出演：トマ・ソリヴェレス/オリヴ  
ィエ・グルメ/マティルド・  
セニエ/トム・レーブ/リュ  
シー・ブジュナー/アリス・  
ドゥ・ランクザン/イゴー  
ル・ゴッテスマン/クレマン  
ティヌス・セラリエ/イゴー  
ル・ゴッテスマン/ドミニ  
ク・ピノン/シモン・アプカ  
リアン/マルク・アンドレオ  
ーニ/アントワヌ・デュレ  
リ

## 👁️👁️ みどころ

イギリスがシェイクスピアなら、フランスはエドモン・ロスタン。イギリスが『ロミオとジュリエット』なら、フランスは『シラノ・ド・ベルジュラック』。それがフランスの主張だが、日本人のあなたは『シラノ・ド・ベルジュラック』を知ってる？

「潜水艦モノが面白い」と同じように「劇中劇」は面白い。それは『恋に落ちたシェイクスピア』でも『蒲田行進曲』でも立証済みだが、さて本作は？このスピード感！このドタバタ感！そしてこの面白さ！やっぱり劇中劇は面白い！

— \* — \* — \* — \* — \* — \* — \* — \* — \* — \* — \*

## ■◻️イギリスが『ロミオ』なら、フランスは『シラノ』！◻️■

イギリスが誇る劇作家がシェイクスピアなら、フランスが誇る劇作家はエドモン・ロスタン。また、イギリスが誇る演劇がシェイクスピアの『ロミオとジュリエット』なら、フランスが誇る演劇は、エドモン・ロスタンの『シラノ・ド・ベルジュラック』だ。

本作の原案と脚本を書き監督したのは、1982年にパリで生まれたアレクシス・ミシャリックだが、彼の初長編作品となった本作には、そんな意気込みが溢れている。

本作を観ながら私がすぐに思い出したのは、名作『恋におちたシェイクスピア』(97年)。同作は『ロミオとジュリエット』の初演を背景とし、若かりし日のシェイクスピアと彼を信奉する上流階級の娘ヴァイオラとの恋愛を描いた悲喜劇。しかし、本作もそれと同じように、『シラノ・ド・ベルジュラック』の初演を背景とし、若かりし日のエドモン・ロスタン(トマ・ソリヴェレス)と彼を信奉する娘・ジャンヌ(リュシー・ブジュナー)との恋愛を描く悲喜劇で、まさにフランス版の『恋におちたシェイクスピア』だ。

アレクシス・ミシャリク監督はパンフレットにあるインタビューで、「この映画はどのようにして誕生したのですか」という質問に対し、彼は「最初のきっかけは1999年にジョン・マッデンの映画『恋におちたシェイクスピア』を見たことです」と答え、たうえて、「実話をもとに、若きシェイクスピアが美しいミュージズのおかげで借金を返し、インスピレーションを得て代表作『ロミオとジュリエット』を書き上げたかを描いています。なぜフランスではこういう映画が作られていないのか不思議に思ったんです」と説明している。しかし、彼が書いた原案と脚本がすぐに映画化に結び付いたわけではなく、一度は舞台劇として書き直す等の苦労をしたうえで本作の完成を見たそうだが、さてその完成度は？

## ■□■何よりも人との「出会い」が大切！エドモンは誰と？■□■

来年1月に72歳を迎える私は、何よりも大切なことは人との「出会い」だと痛感している。本作導入部は、無名の劇作家で詩人のエドモン・ロスタンが「とんだ駄作だな。1週間打ち切る。」とパリの名だたる劇場の支配人から言い放たれてしまったにもかかわらず、様々な人物と大切な「出会い」を重ねていく姿が描かれる。

その第1は、その芝居で主演していた大女優・サラ（クレマンティーヌ・セラリエ）と出会い気に入られたこと。第2は、自分の夫は天才で、必ず傑作を書くと思える妻・ロズモンド（アリス・ドゥ・ランクザン）との出会いと結婚できたこと。第3は、サラの紹介で出会うことができた名優、コンスタン・コ克蘭（オリヴィエ・グルメ）から、ハチャメチャながらも2時間後に作品を持ってこい、と作品の注文を受けたこと。第4は、その注文された芝居の台本を書くためカフェの席に座り、真っ白なノートを前に呆然としていたエドモンに対して、黒人の店主・オノレ（ジャン＝ミシェル・マルシアル）から才気あふれるヒントをもらえたこと。

これらの「出会い」によって、エドモンは「醜男だが行いは華麗な人物」という設定を思いつき、実在の剣術家にして作家のシラノ・ド・ベルジュラックを主人公にする芝居を書くという方向性が決まったわけだ。もちろん、その原案に基づいて台本を書くのはエドモン自身。思いつく限りのアイデアを語るエドモンに対して、コ克蘭は「喜劇にしろ！」という注文だけで、ゴーサインを出してくれたから、さらにラッキーだ。問題は残された時間がわずかしかないことだが、エドモンはそれをどうクリアするの？

## ■□■「劇中劇」は面白い！どれが現実？どれが芝居？■□■

「潜水艦モノ」は面白い！それと同じように、劇中劇は面白い！それが私の持論だが、それを見事に立証したのが、『恋におちたシェイクスピア』だった。そこでは、美人女優グウィネス・パルトローが『十二夜』の登場人物ヴァイオラと同名のヒロインとして登場し、兄の名前を名乗る男装の麗人役を演じていた。それに対して本作では、エドモン自身が衣装係の女性ジャンヌ（リュシー・ブジュナー）に恋する、エドモンの友人で俳優のレオ（トム・レーブ）の代わりにラブレターを書いたり、愛の言葉をささやいているうちに、『恋に落ちたシェイクスピア』と同じようなドタバタ劇が進んでいくので、それに注目！

『ロミオとジュリエット』では、毒薬を飲んで死んでしまう悲劇の前の、バルコニーで愛を交わすシーンが最高の見どころだが、レオ（影の役者はエドモン）とジャンヌがバルコニー（？）で、互いに姿を見せないまま熱く愛を語り合うシーンが、本作前半最大の見どころになる。レオの方はそれだけで無我夢中になってしまったが、台本の完成を急いでいる劇作家のエドモンの方は、この体験を一刻も早く台本にまとめる作業が必要だが…。

## ■□■大スターも実は借金まみれ！？劇場への支払いは？■□■

現在、読売新聞の「時代の証言者」には、現代の吟遊詩人・さだまさしが登場しているが、11月26日付、連載18回目のそのタイトルは「中国で映画製作 大借金」というもの。彼は、自ら出資した映画『長江』を完成させ、大ヒットさせたものの、収益としては最終的に28億円の借金が残り、完済するのに約30年かかったそうだ。彼に限らず、映画製作に手を出して失敗した芸能人は多い。

それと同じように（？）、1895年当時のパリでは、大俳優のココランも実は多額の借金を抱えていたらしい。そのため、ココランはエドモンの新作をかつて所属したコメディ＝フランセーズへの復帰作にと目論だが、古巣の支配人から「パリ中の劇場から追放する」と言われたため、来年の1月1日まで借りているボルト・サン＝マルタン座で、急遽「シラノ」を上映することに決めたが、さて彼は劇場への支払いはできるの？

## ■□■こんなにわか稽古で開演できるの？観客は？反応は？■□■

『恋に落ちたシェイクスピア』と並ぶ劇中劇の名作『蒲田行進曲』（82年）は、階段落としの大スペクタールと人情漸のバランスが絶妙だった。同作のハイライトは本番のカメラの前で決死の「階段落とし」が成功するか否かだったが、本作では、それ以前に『シラノ・ド・ベルジュラック』がほんとに開演できるのか否かに注目！だって、公演初日までの日程はメチャきついうえ、セリフに文句ばかり言う大女優をなだめたり、ジャンヌとの浮気を疑う妻からの追及をかわしたり、エドモンは台本作り以外の雑用（？）にも追われていたのだから。

大女優の代役に衣装係のジャンヌを急遽起用したのは窮余の一策ながらうまくハマってくれたが、恋の語らいやラブレターの代筆がバレてしまった後の友人レオの怒りは如何に？人間離れした鼻をもった醜男シラノ役を演じるココランは意気揚々だから何とかかなりそうだが、この台本の展開は彼が要求していたように、ホントに喜劇になるの？そんな心配も私の頭をかすめたが、何はともあれ開幕は？

1895年当時のパリの演劇界にはネットによる事前販売はないから、初日直前にポスターを貼るくらいでは宣伝効果はイマイチ。これでは観客の動員はどうなるの？そんな状況下に太っ腹なところを見せたのは、カフェの店主オノレ。彼は『シラノ・ド・ベルジュラック』の第一幕だけでも鑑賞した客には食事をタダにすると大盤振る舞いだが、さて・・・？

そんなドタバタ劇の中でやっと幕があがった『シラノ・ド・ベルジュラック』に対する

観客の反応は？

2020（令和2）年11月26日記